

# 2027



さあ、新しいインターフェイスの可能性を開け

世界の歯学をリードする

独自の教育カリキュラムで

口腔健康科学を学ぶ



# 東北大学歯学部

Tohoku University School of Dentistry



TOHOKU  
UNIVERSITY

# 始めよう、君たちのグロー



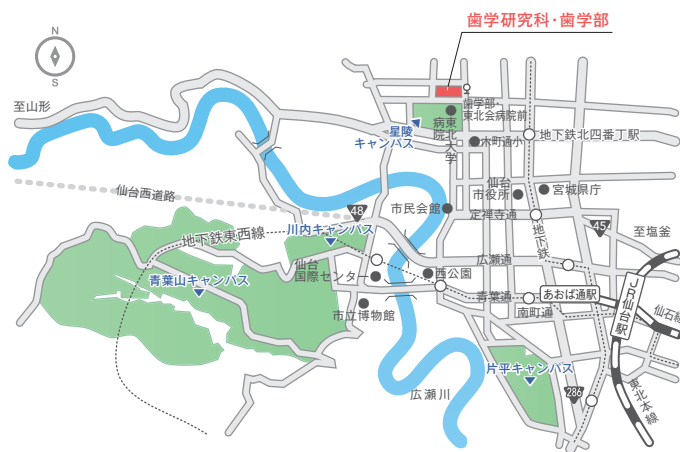
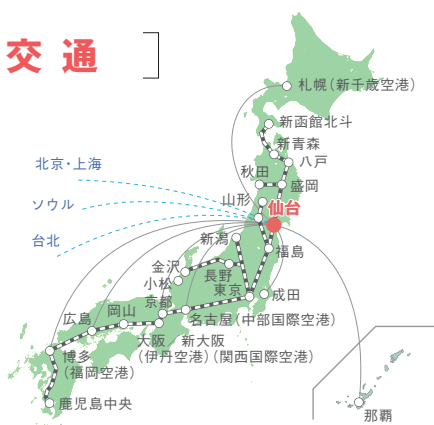
## Welcome 「杜の都・仙台」の魅力 SENDAI

東北大学が位置する「杜の都・仙台」は、緑豊かな街並みに東北唯一の政令指定都市としての都市機能が充実しています。また、ちょっと足を延ばせば、豊かな自然にふれられるのも魅力です。

### FOOTWORK 交通

高速バス、新幹線、飛行機の便利なアクセス

仙台は高速バス（東京から約6時間・約4,000円～）、新幹線（東京から約1時間半・約11,000円）など、高速交通網に恵まれています。



### CORE-TOWN タウン散策

仙台のショッピング&タウン散策には、一番町界隈がおススメ。牛タン、冷やし中華（仙台が発祥の地）、ずんだなどの仙台グルメも要チェック。



(公財)仙台観光国際協会

### HISTORY 歴史

広瀬川の清流と緑に恵まれた仙台は、約400年前に伊達政宗がつくりあげた62万石の城下町。伊達藩の遺産である仙台城址、瑞鳳殿、輪王寺などが点在しています。



### CULTURE 市民文化

仙台は「学都」の誇り高く、文化が薫る都市として、美術館や博物館の文化施設が充実。中でも、文化交流のステージ「せんだいメディアテーク」の活動ぶりは注目もの。世界的な音楽コンクールの開催はもとより、交流イベント、展覧会など、市民の文化活動が盛んです。



# バルインターフェイスの未来を。

## 口(くち)とは何か、考えたことはありますか？

口の機能とは何でしょう？ もちろん、呼吸をする、飲食をするといった生命の維持に直接関わることから、例えば吹奏楽の楽器を演奏するといったこともあるかもしれませんが、歌を歌うといったこともあるでしょう。そして社会の中で生きるために必要なのがコミュニケーションです。

そういった非常に大事な役割のある口腔を様々な切り口で研究や臨床を通じて世の中に貢献しようとしています。

私たちは、このような口腔の役割を再認識し、歯学の新しいコンセプト「インターフェイス口腔健康科学( IOHS: Interface Oral Health Science )」を提示してきました。IOHSでは、口を3つのシステム、すなわち、口を形作る私たちの組織(歯、口腔粘膜、筋、骨など)、そこに生息する膨大な数の微生物(口腔マイクロバイーム)、そして歯科治療に欠かせない歯科生体材料から成るものとし、そこに咬合力などの複雑な力が加わる一種の「生態系」と捉えています。う蝕や歯周病などの口腔疾患の多くはこれらシステム同士が接する「インターフェイス」で生じており、これらのインターフェイスを健全に保つことが口腔疾患を予防し、口腔機能の維持・向上に繋がります。さらに、口腔そのものが外界とのインターフェイスであり、社会で生きるために他人とコミュニケーションを取っています。そして、これらの口腔機能が健全であることが、我々のウェルビーイングにとって欠かせないものです。

東北大学歯学部は、1965年(昭和40年)4月、日本で3番目の歯学部として誕生しました。理想とする歯学教育研究機関を目指し、「一口腔一単位」「全人的歯科医療」「考える歯科医師」を理念に掲げ、優れた歯科医師、歯学教育研究者の育成を行ってきました。「一口腔一単位」は、口腔全体を診た治療計画に基づく歯科医療の理念として全国の歯学部に流布しており、そして「全人的歯科医療」は単に歯科医療に終わらない、人そのもの、さらには社会全体の健康を目指す医療としての理念であり、現在の多職種・多機関連携による包括的医療に繋がるものとなっています。

国際化も進んでおり、歯学教育研究のアジア拠点として、世界有数の歯学拠点校との国際連携による教育研究を実践しており、学部生の1割弱、大学院生の1/4は留学生です。国籍に関係なく、同じ歯学を志す学生として切磋琢磨する環境が日常となることは、今後、グローバル社会での活躍を期待される若い学生諸君にとって大きな魅力になると思います。短期留学プログラムも豊富であり、気軽に海外交流を経験することが可能です。

東北大学は、東京帝国大学、京都帝国大学に次いで日本で3番目に設置された旧帝国大学を前身とし、現在はこれらの旧帝国大学とともに指定国立大学となった総合大学です。Times Higher Educationの評価では国内で第一位の評価を受けております。多くの学術的資産と優秀な人材に恵まれ、世界に誇る業績を創出し続けており、日本の将来の礎(いしずえ)となるように努力しています。



東北大学  
歯学部長

小坂  
健

FESTIVAL 祭り

|     |                    |
|-----|--------------------|
| 5月  | 仙台・青葉まつり           |
| 8月  | 仙台七夕まつり            |
| 9月  | 定禅寺ストリートジャズフェスティバル |
| 12月 | SENDAI 光のページェント    |

目次

CONTENTS

|   |      |
|---|------|
| 学部長あいさつ   | → 03 |
| 古くから続く日本の歯科医療、今世界が注目する最先端の歯学を学び、口腔科学者・歯科医師を育成します。 | → 04 |
| インターフェイス口腔健康科学とは、何か。                              | → 06 |
| 歯学部のカリキュラム  | → 07 |
| 1、2、3年次のカリキュラム                                    | → 08 |
| 4、5年次のカリキュラム                                      | → 09 |
| 5、6年次のカリキュラム                                      | → 10 |
| 東北大学病院  | → 11 |
| Campus Life ー歯学部生のキャンパスライフー                       | → 12 |
| 卒業生座談会  | → 14 |



# 古くから続く日本の歯科医療、 今世界が注目する 最先端の歯学を学び、 口腔科学者・歯科医師を 育成します。

## 東北大学歯学部で求める人物 (アドミッションポリシー)

歯学部の教育目標は、豊かな教養と人間性、高い倫理観と「科学する心」を備え、歯学・歯科医療の各分野で指導的立場となる歯科医師、教育研究者を育成することにあります。歯学・歯科医療の知識や技能を

十分に修得できる基礎学力を備え、問題解決や知識追求に高い意欲を持ち、多様な価値観を受容する柔軟性、幅広い視野と豊かな感性を持ち、将来、医療に携わる者として相応しい人を求めています。



## 世界と日本の歯学の歴史

18世紀、ヨーロッパで“近代歯科医学の父祖”といわれるピエール・フォーシャルによって総入れ歯や歯石除去などの近代的な歯科治療が行われ、19世紀に入るとアメリカではほぼ現代に近い歯科医療が始まったといわれます。ちなみに、アメリカにはジョージ・ワシントンの義歯が残さ

れていますが、日本では、それより古い16世紀後半につくられた木床義歯が、発見された最古の義歯として残されています。それを見る限り、日本の歯科医療技術が高い水準にあったことがうかがわれます。

1854年に日米和親条約が結ばれ、下田、函館が開港されるとともに外国人が渡来するようになりました。1860年には、アメリカ人ウィリアム・クラーク・イーストレイキーが横浜で歯科医院を開業。アメリカの歯科医

師を通じて、欧米の近代的歯科医療に直接触れることができるようになりました。

そして1800年代末から1900年代初めにかけて、日本でも歯科医学校が設立され、歯科医師法が整備され、歯科医学会、歯科医師会が発足し、歯学が確立されたのです。黎明期、野口英世は高山歯科学院で給仕をしながら学び、後には講師となって講義を行ったというエピソードも残っています。

## 1965年、東北大学歯学部発足

このような流れの中では、1965年に発足した東北大学歯学部の歴史は比較的新しいものです。しかし、その誕生、発展は「一口腔一単位」、「全人的歯科医療」の理念のもと、独自の

ものでした。この理念を診療体系に持ち込むとなると、様々な専門的視点からの診断・治療方針を総合的に取捨選択しなければなりません。欧米には、例えば「I have four dentists」という言葉があります。歯科の専門化が進み、「4」は「プライマリーケア（口腔ケア）」「口腔外科」「補綴（歯の修復）」「エンドデンティスト（神経の

処置）」それぞれの専門歯科医を指しています。つまり、歯学とは、様々な視点から顎口腔領域の健康と疾患を理解し、生体全体の中に位置づけ、その予防、診断、治療の方法を開発し、健康を維持増進させる学問なのです。東北大学歯学部の卒業生は、考える歯科医となり、最善の診療・研究・教育に日夜邁進しています。

### 参考

歯学の歴史と東北大学歯学部の歴史を詳しく知るには……

▶「歯の歴史館」(1981年日本医療文化センター発行) ▶日本歯科医史学会ホームページ <https://jsdh.gakuijyutsusha.jp/>  
▶東北大学歯学部同窓会ホームページ <https://www.tohoku-dent-alum.jp/>

## 近代歯科医学と日本の歯科医学の歩み

- 1723 フランスで、ピエール・フォーシャル(近代歯科医学の父祖といわれる)が論文『Le Chirurgien Dentist』発表
- 1728 フォーシャル、上顎総入れ歯を製作
- 1840 アメリカに、世界最初の近代的な歯科医学校ボルチモア歯科医学校誕生
- 1844 アメリカで、笑気を用いた全身麻酔下での抜歯を施行
- 1846 アメリカで、エーテル麻酔を用いて口腔外科手術を施行
- 1860 アメリカ人ウィリアム・クラーク・イーストレキー、横浜で歯科医院を開業  
アメリカの歯科医療に直接触れることができるようになった
- 1876 瑞穂屋、わが国で初めて歯科器材をアメリカから輸入  
国内でも、歯科器械の生産始まる
- 1878 1872年に私費留学した高山紀齋、アメリカで歯科医師開業試験に合格し、帰国
- 1881 高山紀齋、わが国最初の歯科専門書『保歯新論』発行
- 1883 医術開業試験規則が制定され、歯科が専門科目に  
アメリカのミラー、「化学細菌説」を発表
- 1888 日本最初の歯科医学校である東京歯科医学校設立(翌年閉校)
- 1890 高山歯科医学院創立(1900年に東京歯科医学院に改称、1946年に東京歯科大学に改組)
- 1891 アメリカのブラック、歯垢がむし歯の原因であることを発見
- 1893 歯科医会発足(1926年、日本歯科医師会と改称)
- 1902 日本歯科医学会発足
- 1903 東京帝国大学医学部に歯科学教室開設
- 1906 歯科医師法成立
- 1911 歯科医学専門学校設立
- 1916 歯科医師法改正、医師の歯科医療行為を制限
- 1928 「ムシ歯予防デー」実施  
東京高等歯科医学校(現、東京科学大学)設立  
国の歯科医師養成教育のスタート
- 1946 GHQの指示のもと歯科教育審議会発足
- 1947 歯科医師国家試験実施
- 1948 「歯科教育基準案」決定

## 歯学部・歯学研究科の歩み

- 1965 東北大学歯学部開設:「考える歯科医師の育成」「一口腔一単位」「全人的歯科医療」の理念提唱
- 1967 東北大学歯学部附属病院開院
- 1972 東北大学歯学研究科開設
- 1975 附属歯科技工士学校設置
- 1993 山本肇名誉教授「レーザー照射による齶触予防その他歯科応用に関する研究」で学士院賞
- 2000 東北大学歯学研究科で、大学院重点化を実施:「考究心」「科学心」をもつ指導的・中核的人材の育成を理念として提唱
- 2002 東北大学歯学研究科で、「インターフェイス口腔健康科学」を提唱
- 2003 東北大学医学部附属病院と歯学部附属病院の組織上の統合  
東北大学病院を開設
- 2004 わが国唯一の歯学研究科修士課程を設置  
医歯学領域以外のキャリアの人材に口腔科学の専門教育を実施
- 2005 第1回インターフェイス口腔健康科学国際シンポジウム開催
- 2007 歯科病床、手術室の移転により東北大学病院附属歯科医療センターと改称  
文部科学省「生体バイオマテリアル高機能インターフェイス科学事業」開始
- 2008 附属歯科医療センターにインプラント外来設置
- 2009 歯学部歯学研究科講義棟リニューアル完成
- 2010 日沼頼夫名誉教授、文化勲章受章  
東北大学病院外来診療棟に歯科部門として附属歯科医療センターが移転・統合
- 2011 歯学イノベーションリエゾンセンターの設置
- 2012 歯学部・歯学研究科臨床研究棟リニューアル完成
- 2013 環境歯学研究センターの設置  
歯科法医情報学分野の設置
- 2014 臨床疫学統計支援室の設置
- 2015 先端再生医学研究センターの設置
- 2017 先端フリーラジカル制御学共同研究講座設置
- 2021 附属歯科技工士学校閉校
- 2025 朝日レントゲン工業×東北大学「みえるをかえる。」共創研究所設置



MESSAGE

## 在学生からのメッセージ

歯学部 6年  
染谷 奈那さん

口は、呼吸や食事、会話など日常生活に深く関わっており、その健康は全身の健康とも密接につながっています。そのため、歯学部では歯や口だけでなく全身についても幅広く学びます。

1年次には、歯学概論を通して早い段階から歯科に触れます。また、川内キャンパスでの全学教育科目では、幅広い分野を学ぶとともに、他学部の学生と交流する機

会もあります。2年次以降は、全身の基礎医学に加え、歯科の専門科目を学び、歯の模型を用いた実習を通して理解を深めていきます。5年次には、少人数制で研究室に所属して基礎研究実習を行い、研究する姿勢を学ぶとともに、大学病院での臨床実習も始まり、臨場的な知識や手技、患者さんへの思いやりや倫理観なども学びます。

また、海外短期留学や留学生との交流の機会があり、多様な価値観や国際的な視点を養うことができます。このように基礎、研究、臨床をバランスよく学びながら、広い視野を持った歯科医師を目指すところが東北大学歯学部の魅力だと感じています。ぜひ東北大学歯学部で、私たちと一緒に学びませんか。

# インターフェイス口腔健康科学とは、何か。

## ① 「インターフェイス口腔健康科学」の誕生

かつて、歯学(歯科医学)として認識されてきた学問体系は、口腔疾患の治療論が主体であり、その病因論や根本となる基礎歯学はむしろ細分化され、体系化からはほど遠いものでした。2002年、東北大学大学院歯学研究科は、細分化されてしまった個々の専門分野を繋ぎ、口腔科学として体系化、すなわち再構築するために、「インターフェイス口腔健康科学」を提唱しました。

口腔は、「歯・粘膜・骨・筋等の口腔組織

(生体)」、「口腔に寄生する微生物(パラサイト)」、「生体材料(バイオマテリアル)」の3つのシステムから成り立ち、この3システムに咬合力に代表される「生体応力(メカニカルストレス)」が加わるのが特徴です。「インターフェイス口腔健康科学」とは『健全な口腔機能は、システムとシステムの接するところ、すなわちインターフェイスが生物学的および生体力学的に調和することで成り立っており、う

蝕や歯周病、顎関節症などの口腔疾患はこれらシステム間インターフェイスの破綻によって生ずる「インターフェイス病」として捉えられる』という新たな概念に立脚するものです。

加えて、口腔そのものが、体内と外界とのインターフェイスであり、誤嚥性肺炎や消化管感染症等の口腔関連疾患もまたシステム間インターフェイスの破綻に起因すると理解されます。

## ② 「口腔のインターフェイス」から「学問のインターフェイス」、そして「社会のインターフェイス」へ

この概念は、口腔科学・歯科医療・口腔保健の領域を網羅するだけでなく、医学、工学、材料学、農学、薬学など多岐にわたる学問領域に通ずるものであり、「インターフェイス口腔健康科学」の実践によって歯学研究のさらなる推進、そして関連領域との学際的研究の活発化が可能となります。2007年には文部科学省から「生体-バイオマテリアル高機能インターフェイス科学推進事業」が認められ、東北大学金属材料研究所等とともに、インターフェイスの制御を目指した新しいバイオマテリアルの研究・開発と臨床応用に取り組みました。2012年からは「生物-非生物インテリジェントインターフェイスの創成事業」が後継として実施されました。これらは、既存の学問分野を接合し新しい学問を創成するとい

う「学問のインターフェイス」の具現化となり、異分野共創の先駆けとなりました。

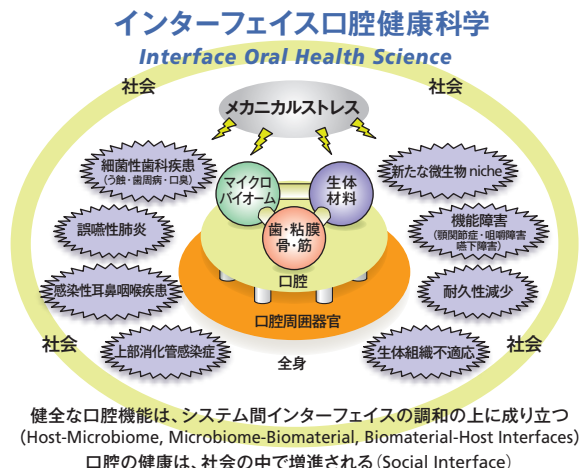
さらに、健全な口腔機能を地域社会や国際社会で実現するためには、地域社会や国際社会との双方向コミュニケーションが不可欠です。すなわち、地域住民の口腔健康状況を把握しそこにある問題点を解決し地域に還元すること、海外の口腔保健状況を把握し必要なことを導入するとともに、海外と連携し日本の研究成果を国際社会に還元することが必要なのです。

本研究科は、2011年に「歯学イノベーションリエゾンセンター」を設置、その中に「国際連携推進部門」と「データサイエンス部門」を置き、それぞれを海外との連携および地域との連携の要としました。現在、米国(ハーバード大学)、カナダ(ブ

リティッシュコロンビア大学)、英国(キングスカレッジロンドン大学)、スウェーデン(ウメオ大学)、フィンランド(オウル大学)、アジア(北京大学、四川大学、上海交通大学、天津医科大学、大連市口腔医院、福建医科大学、香港大学、中国; ソウル大学、全南大学校、延世大学校、韓国; 国立台湾大学、国立陽明大学、台湾; チュラロンコン大学、プリンスオブソングラ大学、コンケー大学、タイ; アイルランガ大学、インドネシア; VSデンタルカレッジ、インド; モンゴル国立医療科学大学、モンゴル)、オセアニア(シドニー大学、オーストラリア)といった数多くの基幹校と国際学術提携を結んでいます。これら2つの部門は「地域社会・国際社会とのインターフェイス」として、大きな役割を果たしているのです。

## ③ 「インターフェイス口腔健康科学」の世界への発信とさらなる拡大

「インターフェイス口腔健康科学」の概念は、現在、次世代の歯学・口腔科学として国内外に広く認められています。2005年には仙台にて「第1回インターフェイス口腔健康科学国際シンポジウム(International Symposium for Interface Oral Health Science: IS-IOHS)」を開催し、国内外から多くの研究者が集まりました。その成果は英文書籍としてまとめられ世界に発信されています。以降、本シンポジウムは約2年毎に開催され、2024年には10回目を迎えました。およそ四半世紀前、歯学の再構築から始まった「インターフェイス口腔健康科学」は異分野共創、国際連携、地域連携を経て、さらに教育開発や食に関する学問「食学」の創生という展開を見せながら、国際卓越研究大学という新たな仕組みの中で、ますますその広がりを見せています。その基盤は、歯学・口腔科学の独自性と他の学問領域との普遍性を持つ独創的な教育研究への希求、そして、そこに集う教育研究教育者と学生の情熱という、歯学研究科が持つ特質にあるのです。



(Curriculum)

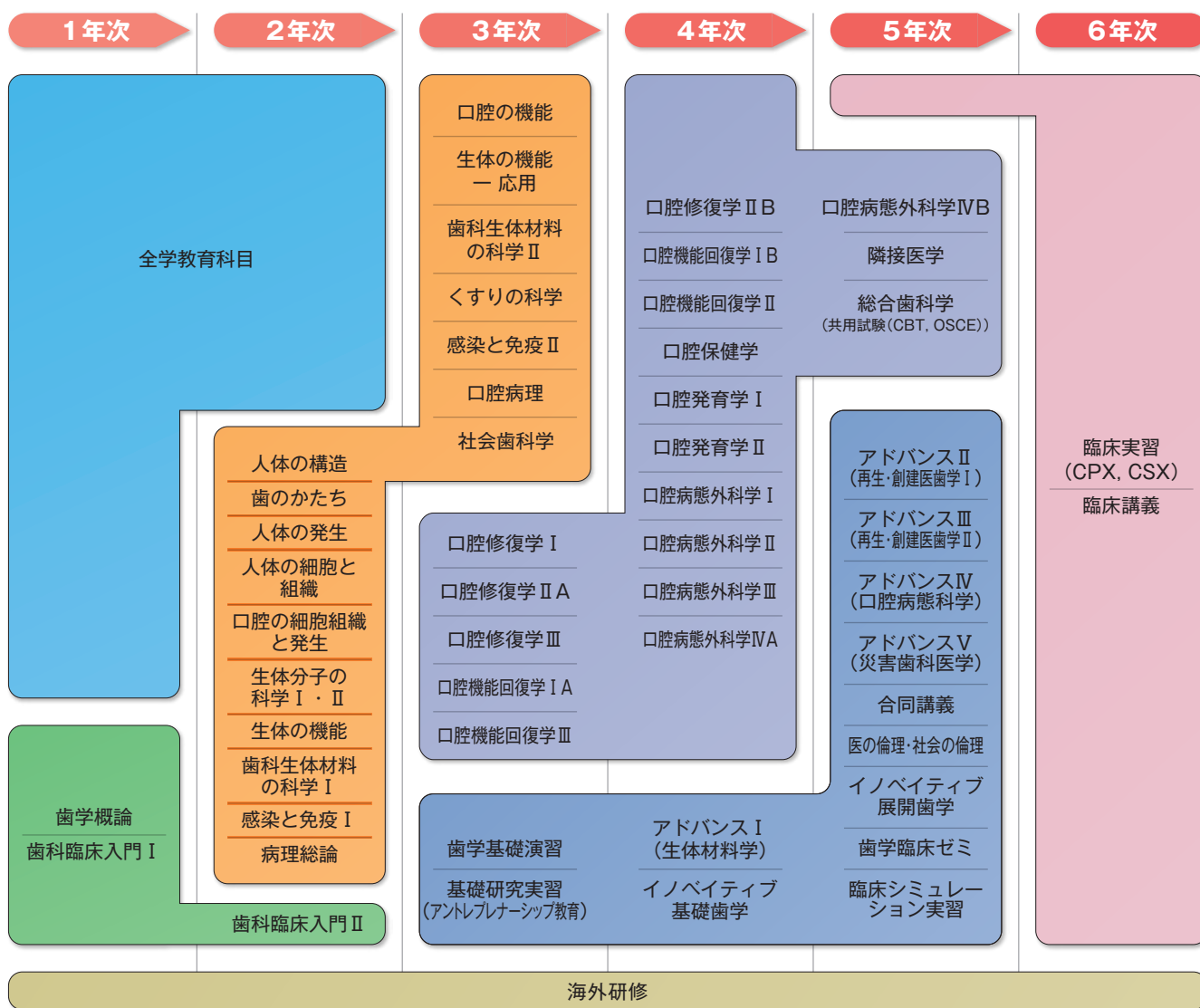
# 歯学部のカリキュラム

## 6年間で歯科医師として必要な知識と臨床技術を修得します。

本学部のカリキュラムは、早期に歯学・歯科臨床の概要を学び歯学生としての自覚を涵養する「導入科目」、歯科医師として必要となる基礎歯学と臨床歯学を学ぶ「コア科目」、東北大学歯学部独自の科目で大学院進学や高度専門職への準備となる「アドバンス科目」、そして歯科臨床の実体験を通して学ぶ「臨床実習科目」からなります。本カリキュラムは、臨床実習前に実施される全国共通の「共用試験」に対応しているばかりではなく、歯科医師国家試験にも充分対応しています。さらに、「アドバンス科目」には大学院を先取りした「プレ大学院科目」として「歯学基礎演習」と「基礎研究実習」が含まれており、歯学部卒業時に、既に大学院で学ぶ考え方も身に付くように工夫されています。



### 6年間のステップ



■ 導入科目   
 ■ 全学教育科目   
 ■ コア科目[基礎歯学]   
 ■ コア科目[臨床歯学]   
 ■ アドバンス科目   
 ■ 臨床実習科目

※学部専門教育科目において、別途教材費用が必要になります。詳細は入学後にお知らせします。

# 1、2、3年次のカリキュラム

**東**北大学歯学部は、1、2年生で、広い視野と柔軟な思考力をもった歯科医師となるために、他の学部の学生と一緒に川内キャンパスで全学教育科目を学びます。「現代人、国際人として社会生活を送るうえで基礎となる知識と技能」、「人間形成の根幹となる、現代社会にふさわしい基本的教養や技法」、「専攻する専門分野の理解を助けるための幅広い学問分野に関する知識と技能」、「専攻分野を学ぶうえで基礎となる知識と技能」の4つの教養や知識、技能を養うことを目的として、【基盤科目類】、【先進科目類】、【言語科目類】、【学術基礎科目類】の4科目類から授業を受講します。一方、入学直後から最初の専門教育科目として、最新の歯学の概要にふれる「歯学概論」と歯科診療を概説する講義や実

習を行う「歯科臨床入門Ⅰ」との2つの導入科目を受講します。2年生からは歯科臨床入門Ⅱとして病院見学実習を通じて診療に臨む姿勢や態度を学び、また、コア科目と呼ばれる歯科医師となるために必須の専門教育科目が始まります。学生は、まず、解剖学、組織学、生理学、生化学、細菌学、免疫学、薬理学、病理学といった一般医学と同等の内容を含む基礎系科目を学び、その上で、口腔解剖学、口腔組織発生学、口腔生理学、口腔生化学、口腔細菌学、歯科薬理学、口腔病理学、歯科生体材料学などの歯科医学教育独自の基礎系科目を履修します。さらに3年生からは、歯科保存学、予防歯科学、小児歯科学、矯正歯科学など、臨床系科目も始まります。基礎系、臨床系とも、講義に加えて自ら体験して学習する実習

の割合が高いことが歯学部のコア科目授業の特徴です。また、3年生の段階で歯学研究者としての基本態度を学ぶ「歯学基礎演習・基礎研究実習」を実施し、大学院レベルでの研究を体験することができます。この授業では、学生一人ひとりが歯学部の基礎系分野を選択して研究室に所属し、英語の学術論文の読解指導を受け、さらに研究の実践を学びます。この間、学生は教員にほとんどマンツーマンで接し、研究者や高度専門職業人として必要な「研究する心(リサーチマインド)」と「常に考える精神」を身につけます。この授業をきっかけに、臨床を科学する重要性を学ぶと共に多くの学生が研究に関心を抱き、卒業後に大学院進学を目指しています。

## 授業紹介



### 「人体の発生」 「人体の細胞と組織」 「口腔の細胞組織と発生」

「人体の発生」では、受精から出生までの過程において、受精卵がどのように形態を変化させ

細矢  
明宏  
教授



てヒト個体になるのかを学びます。「人体の細胞と組織」では、多種多様な細胞が規則性を持って配列することで組織を形成し、異なる組織が集合して器官を構成することを学びます。また、「口腔の細胞組織と発生」では、顎顔面および歯・歯周組織がどのようにして形成されるのか、どのような細胞と組織で構成されるのか、より詳しく学習します。

### 「人体の構造」「歯のかたち」

「人体の構造」では人体解剖の講義や実習により、頭部と頸部を中心として全身の肉眼的構造を学びます。「歯のかたち」では講義や歯を観察する実習により、ヒトの歯の形態を学びます。これらの講義や実習により、歯科医師として治療や病気の状態を知る上で基礎的かつ必須の知識を修得します。また医療人として高度な倫理観と生命の尊厳について考えていきます。

高山  
雄次  
教授



### 「くすりの科学」

3年次「くすりの科学」では、歯科で頻繁に用いられる化学療法薬、抗炎症薬、解熱鎮痛薬、消毒薬のみならず、末梢神経系・中枢神経系、循環器系、呼吸器系、消化器系に作用する薬物も含め、分子レベル、細胞レベル、個体レベルでの作用と作用機序を学びます。この科目を理解するには、2年次から学ぶ専門基礎科目の知識が必要です。

若森  
実  
教授



### 「歯科生体材料の科学Ⅰ及びⅡ」

ほとんどの歯科医療では材料を使用して形態や機能を回復させます。医療目的で使用される材料は「生体材料」と呼ばれ、機能性や安全性など材料学的性質を十分に理解して使用する必要があります。「歯科生体材料の科学Ⅰ」では、様々な材料の性質を理解するために必要な基礎知識を学習します。「歯科生体材料の科学Ⅱ」では、歯科医療で用いられている歯冠修復材料やインプラント材料などの具体的な歯科医療における生体材料(歯科生体材料)の性質を学習します。

岡田  
正弘  
准教授



## 「口腔修復学Ⅰ」

「口腔修復学Ⅰ」では、保存修復学の講義と実習を行います。講義は総論と各論に分かれ、総論では保存修復に必要な前処置、窩洞形態の一般法則、徐痛法、歯髄保護、仮封、窩洞形成法を学習します。各論では、審美修復（接着性コンポジットレジン修復、ポーセレンインレー、漂白法）と金属材料によるインレー修復法を習得します。実習では、基本的なレジン修復症例とメタルインレー症例をシミュレートし治療姿勢、器材の使用法、窩洞形成法、修復法を習得します。

齋藤正寛  
教授



(Curriculum)

# 4、5年次のカリキュラム

**4、5**年生は最も多く臨床科目を学ぶのみならず、これまでに習得した知識と技術を統合していく時期に当たります。4年生のコア科目では、歯科医師として診療をしていくのに必須な臨床科目が最も多く開講されます。ここで学生は、口腔の様々な疾患のメカニズムやその診断・治療

法を学びますが、各科目には講義だけではなく模型実習が多く含まれています。5年生は東北大学歯学部独自のアドバンス科目が展開される学年で、最先端の研究成果に基づいた新たな時代の「口の科学」に関する様々な講義が行われると共に、これまでに学んだ知識・技術を統合していくために「歯学臨床ゼミ」、「合同講義」や「臨床シミュレーション実習」などが開講されます。特に平成25年度より新たな試みとして、統合型病態模型を用いた模型実習を「臨床シミュレーション実習」に導入しました。これにより、これまで各科目で行われていた実習に関する知識・技能を有機的に連携させるばかりでなく、総合的診断力や問題解決能力を涵養することを目指します。また、臨床実習に必要な知識・技術・態度が十分に備わっているかを確認するためのテ



ストであるCBTとOSCEが5年生に実施されます。これは全国の歯学部学生に対して行われるものですが、これをパスしないと臨床実習に進むことはできません。またこれからの歯科医師は全身状態や疾患についての深い知識が要求されますので、4年生は「隣接医学」として内科学や耳鼻咽喉科学などを学ぶことになっています。



## 「口腔病態外科学Ⅱ」

口腔外科は、口腔および顎顔面領域の先天異常、後天性の欠損や損傷、口腔に現れるさまざまな疾患および全身疾患の一症状として口腔や顔面に異常をしめす疾患などの診断と治療および障害された形態と機能の外科的な回復を扱う学問であり、医科と歯科の境界に位置し、医科と歯科の双方の総合的な知識が必要となります。本講義では歯科医師として必要となる、これら口腔に現れる様々な疾患の種類、診断と治療法について最新の知見を教授します。

山内健介  
教授



## 「口腔保健学」

口腔保健学では、ヒトの誕生から成人期までの口腔機能の健全な発育の誘導と支援について学びます。子どもの健全な口腔の育成は、生涯を通じた健康の基となり、「食べる」「話す」「笑う」の生きる力の源となりますので、子どもたちを医療者として慈しみ健康を支援できるようにしっかりと学んで下さい。本講義は、予防歯科学分野、小児発達歯科学分野、顎口腔矯正学分野、障がい者歯科治療部が担当します。

小関健由  
教授



## 5、6年次のカリキュラム

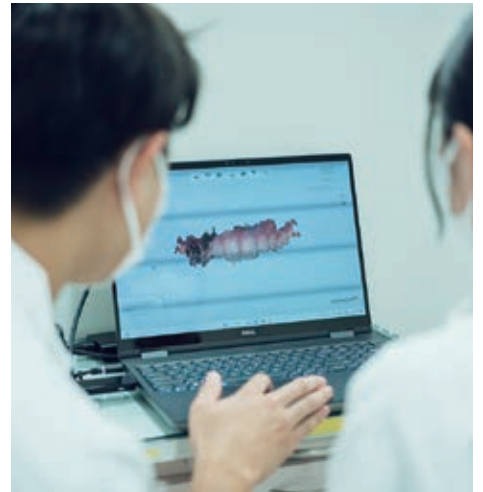
**臨** 床実習は歯学部教育の最終課程と位置づけられています。5年生後半から6年生にかけての1年数ヶ月、実際に患者さんの治療を担当することにより、歯科医師としての知識・技術・態度についての総仕上げを行います。本学部の臨床実習は、建学以来「人間尊重」・「人間単位」の実習形態を追求し、その結果、「一口腔一単位」の臨床実習が行われてきました。「一口腔一単位」の意味するところは、単に個々の歯を治療の対象とするのではなく、人を対象として全人的見地から口の中

を診査、診断し、包括的医療を実践する診療形態です。患者さん中心の歯科医療、患者さんに対する畏敬や思いやり、倫理観など医療人として身につけるべき基本を学び、併せて自己研鑽すなわち「人間形成」に努めるという教育理念がここにあります。この形態は東北大学歯学部独自のものであり、他大学からも高い評価を受け、現在では多くの歯学部・歯科大学で取り入れられています。

臨床実習では、約100名の教員(歯科医師及び医師)が実際の指導に当たっ



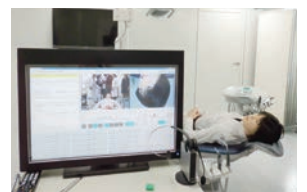
ています。学生数に比べて教員数が多いことも本学部の特徴であり、学生にとっては恵まれた環境のなかで実習を受けることができます。



### COLUMN

#### 歯科実習用 ヒト型ロボット SIMROID® (シムロイド)

人体に似た外観と反応(表情・動き・会話)を備えたヒト型患者ロボットで、痛みや不快を感じると反応します。





# 東北大学 病院

Tohoku University Hospital



## 【東北大学病院の紹介】

東北大学病院は1817年に創設された仙台藩医学校を根源とし、1915年に東北帝国大学医科大学附属病院として開設された、歴史と伝統のある病院です。入院する患者さんのベッド数は全国の国立大学病院でトップクラスの規模を誇っており、患者さんは東北地方のみならず、全国さらには海外からも訪れます。当院は国から「特定機能病院」に指定されており、高度な先進医療の提供だけでなく、高度な医療技術の開発や研修を使命としています。また、全国で初めて承認された「臨床研究中核病院」の一つでもあり、「先進の医療を優しさとともに」を基本理念に、最先端の医療技術の研究開発を推進しています。

このように由緒ある先進的な総合病院のなかで、歯科診療部門は11の専門診療科、6つの特殊診療部と4つの高度治療センターで構成されています。歯科は外来棟で3つのフロアにまたがっており、約140台の治療用チェアを有しています。また、病棟には歯科で手術を受けて入院する患者さんのベッドが約30床あります。歯科診療部門には約260名の歯科医師が働いており、歯科衛生士、歯科技工士、医師、看護師、放射線技師、臨床検査技師、言語聴覚士、管理栄養士など、たくさんの職種と協働してチーム医療を行っています。このような体制のもと、歯科診療部門では1日あたり約600名もの患者さんの診療を行っています。

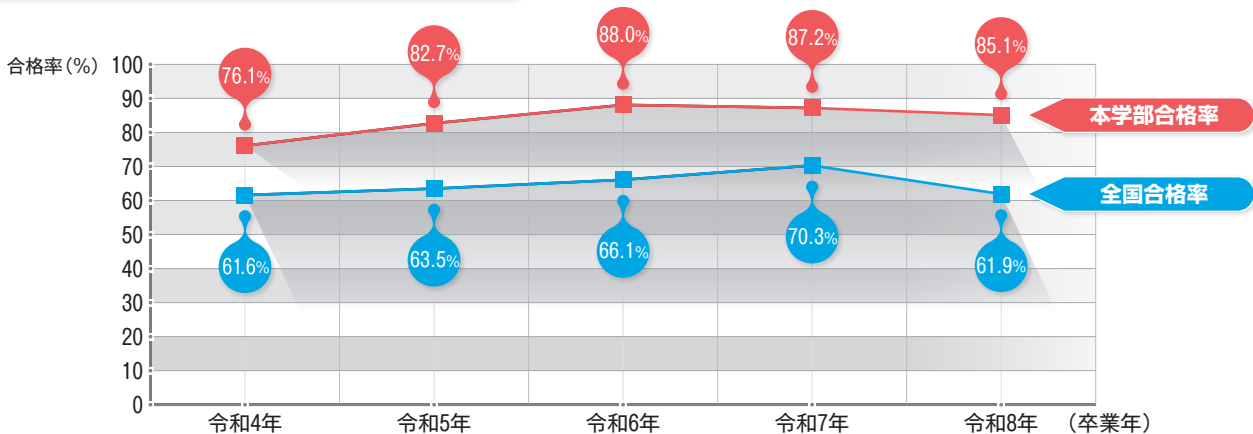
当院は、全国的に見ても「他職種連携」と「医科歯科連携」が高いレベルで進んでいる大学病院です。医科と歯科が一つの病院建物のなかであり、「愛し(医と歯)の関係」(私が推奨しているダジャレです)のキャッチコピーのもと緊密に連携しているため、患者さんに高度で総合的な医療を提供できる点が当院の特徴と言えます。口の病気の原因の多くは口そのものにありますが、全身の病気の部分症状として口の病気が現れる場合もあります。また、口の病気や歯を失うことで、全身の病気や手術後の合併症を引き起こす場合があることもわかってきました。つまり、歯科がますます医科と連携して患者さんの全身の健康回復や生活の質の維持・向上に貢献する時代となっています。また、連携という点では、当院は「産学連携」も進んでいます。企業との共同研究により生まれた、最先端の医療を患者様に提供しています。東北大学歯学部学生は、2年生次という早い段階で総合歯科学実習として当院の臨床に触れる機会があり、さらに5年次からは当院の臨床現場で、スチューデントデンティストとして実際に患者様を通して歯科医師に求められる知識・技術・態度を学びます。私たちは、学生達が医療チームの一員として患者さんから多くを学び、社会の要請に応じる歯科医師、さらには地域のみならず世界の歯科医療に貢献し、歯科医学の発展を牽引するリーダーとなることを願いながら、臨床教育に取り組んでいます。



東北大学病院 総括副院長  
歯科診療部門長

**飯久保 正弘** 教授  
(顎口腔画像診断科、  
周術期口腔健康管理部)

## 歯科医師国家試験合格状況



## 卒業後の進路

卒業後は、大学病院等の研修医を経て、大学院進学、開業医勤務等、ほぼ全員が歯学研究または歯科医療に携わっています。

東北大学歯学部  
(6年間)

歯科医師免許取得

歯科医師  
臨床研修  
(必修1年間)  
東北大学病院  
(2プログラム)  
東北大学外  
臨床研修施設

東北大学大学院  
歯学研究科  
博士課程  
(大学院進学、4年間)

\* 学会認定専門医取得  
博士(歯学)取得

\* 多くの場合、学会認定専門医は数年間、指導医の元で研修することが必要となります。大学院生として指導医の元に就学すると、専門医取得が容易となります。



歯学部4年 齋藤 拓翔さん

### 歯学医師を志す仲間と 切磋琢磨できる環境

東北大学歯学部では、6年間を通して全学教育と専門教育の両方を受けることができます。全学教育は主に1・2年生の間に行われ、英語やドイツ語などの外国語、数学など幅広い分野を学びます。専門教育は基礎科目と臨床科目に分かれており、基礎科目では解剖学や生理学など、臨床科目の基礎と



なる内容を学びます。臨床科目では模型を用いて虫歯の治療や義歯の作製などを行い、実際の歯科医師に近い形で実習を行うことができます。これによって、より実践的に歯学を学びながら学習へのモチベーションを高めることができます。

また、サークル活動も盛んで、歯学部には歯学部生のみで構成されるサークルもあります。私はサッカー部に所属しており、年に一度開催される歯学部生のみでの大会であるオールデンタルに向けて日々練習に励んでいます。サークル活動では芋煮会や花見などのイ

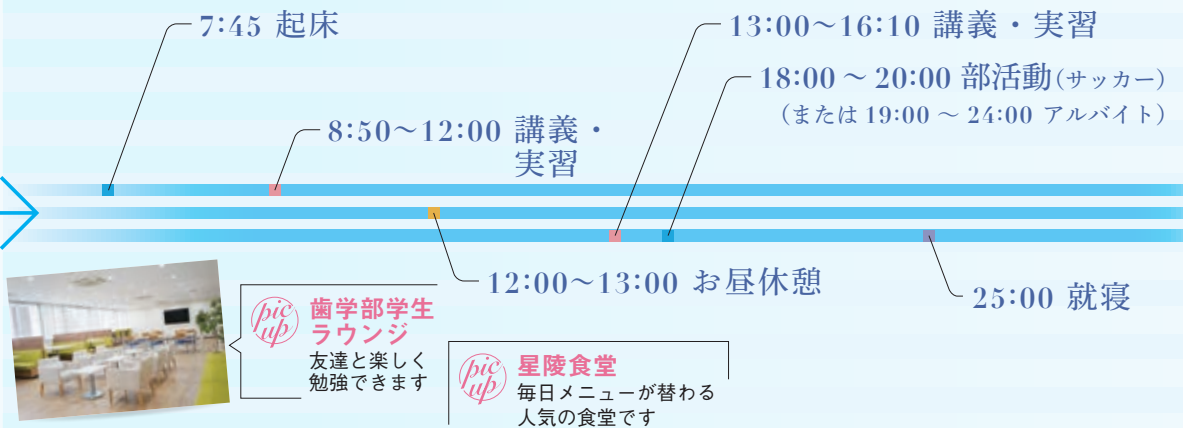
ベントがあり、多くの人とのつながりを築くことができます。

さらに、歯学部では交換留学も盛んに行われており、私はインドネシアを訪れ、海外の歯科医療や文化について学ぶ貴重な経験をすることができました。

このように東北大学歯学部では、歯科医師を目指す学生同士が切磋琢磨しながら学び、サークル活動や留学など様々なことに挑戦できる環境が整っています。ぜひ私たちと一緒に、多くの経験を積みながら充実した6年間を過ごしましょう！

### Schedule

スケジュール



### 歯学部 サークル 紹介

大学のサークルの他に、  
歯学部学生だけで構成される  
サークルもあります。



㊦ 弓道部



㊧ 軟式  
庭球部

㊨ サッカー部



㊩ 硬式庭球部



㊪ 準硬式  
野球部



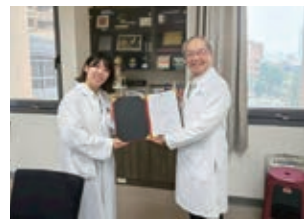
㊫ ゴルフ部



歯学部5年 石川 葵さん

## 歯学部で見つけた 学びと出会い

まず、歯学部の生活の軸である教育について紹介します。1、2年生のころは、一般教養科目である「全学教育」として、主に川内キャンパスに通い英語や物理、選択科目を履修します。特に全学共通である「学問論」を通して、他の学部と議論を重ねながら課題に取り組みます。異分野



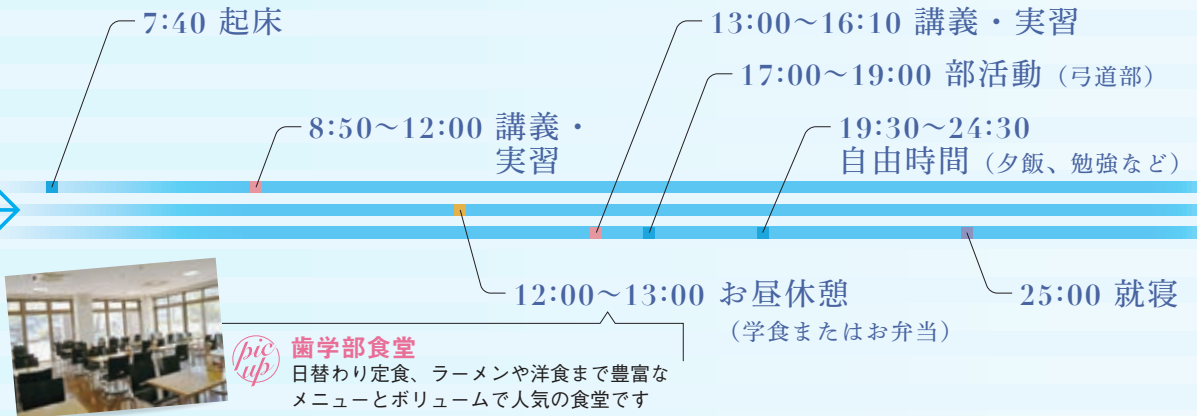
の人と協力する経験は、将来医療者として大切になると感じました。その後、2年生になると専門科目が本格的に始まります。最初に全身のことについて勉強していき、そこから徐々に口腔について理解を深めていくため、知識の繋がりを感ずることができました。3、4年生では実際に模型の歯を削ったり、入れ歯や被せ物を作ったりすることで技術と理解を両方深められます。専門教育を通して、歯医者としての知識だけではなく、医療人としての心構えや立ち振る舞いも身につけていきます。

さらに、課外活動もキャンパスライフを充実させてくれます。私は歯学部弓道部に所属しており、仲間と一緒に大会に向けて日々練習に励んでいます。歯学部の先輩や後輩、さらにOBOGの先生とも交流できる貴重な経験です。

このように歯学部での6年間は、学びと出会いに恵まれた生活です。先生もとても優しく、同じ学部に入った仲間と目標に向かって切磋琢磨をし合える環境も整っています。ぜひ、私たちと一緒に充実した歯学部生活を過ごしましょう。

Schedule

スケジュール



④水泳部



④卓球部



④バスケットボール部



④陸上部



④軽音部



④バドミントン部



④バレーボール部



④競技スキー部



④剣道部



④歯科医療研究会



東北大学歯学部で6年間学び、現在は大学院での研究や医員として臨床に打ち込む先輩たち。学部時代を振り返り、リアルな大学生活や将来の夢を語ってくれました。

## ホンネを聞かせて！ 卒業生座談会

### なぜ歯学部？なぜ東北大？ それぞれのストーリー

**柴山** 現在、大学院生として大学病院で矯正歯科の現場に携わりながら、動物を使って矯正と骨の関係について研究を進めています。高校時代に医療系の進路を考え、親戚の歯科医師の影響もあって歯学部を志望しました。充実した研究環境を求めて、「研究第一」の理念を掲げる東北大を選びました。

**鶴田** 子どもに関わる仕事に就きたい、小中学校教員や小児科医、助産師など多くの選択肢で迷った末に、小児歯科を志しました。現在は、より専門性の高い「小児歯科専門医」の資格取得を目指して研鑽を積んでいます。東北大を志望したのは、総合大学でさまざまな価値観の人と出会えると思ったから。女子寮に入り、実際に他学部生とすごく仲良くなり視野も広がりました。

**和田** 僕は臨床にも携わりつつ、より研究に比重を置いた生活です。国際歯科保健学は、ビッグデータを活用し、歯科保健に関する新たな発見に繋げることを目指す分野。従業員の口腔状態と企業の生産性の関係など、社会で起きている現象の因果関係を解析し、経

済活動や地域社会にどう活かせるかを研究します。もともとは歯科医の父の影響で自然に歯学部を目指し、「学ぶなら旧帝大！」と考えて本学にきました。

### 未来の可能性を広げる 豊かな研究の土壌

**和田** 5年生で大学院レベルの研究を体験できるのが、すごく良かった。学会でのポスター発表も経験でき、研究者の世界に少し足を踏み入れた気分になりました。入学時は歯科医になるための勉強しか頭になかったけど、研究室での学びがきっかけでビッグデータを使った研究の社会貢献への可能性を感じ、大学院へ進みました。幅広い選択肢、数限りない扉が用意されているのが東北大の魅力だと思う。

**鶴田** 私も学部3年から研究をして、貴重な経験ができました。熱意を伝えれば門戸が開き、意欲に応えてくれる環境が東北大にはあるよね。何よりいいのは、先生方が目をキラキラ輝かせて授業や研究をされていること！「好き」に真っすぐに突き進んでいる。研究者って素晴らしい仕事だなと憧れます。

**柴山** 確かに！ 仕事なのか、興味への飽きなき追求なのか…とにかく楽しそうだね。僕にとって良かったのは、病院実習で各診療科を回れることです。正直にいうと入学前は「歯医者

は歯を削るのが主な仕事」という認識だったけど、実習で、歯を削らずに患者さんを笑顔にできることを学べて感動。矯正歯科を研究したいと思ったのはこのときです。

### 部活、サークル、大学祭 夢中になれるキャンパスライフ

**鶴田** 勉強だけに追われず、みんながそれぞれ学生生活全般を充実させている校風が気に入っています。私もバイトや部活を楽しみました。部活はバドミントン部で、一番の思い出は、コロナの影響で4年ぶりの開催となった5年時のオールデンタル（全国歯科学生総合体育大会）です。幹部として愛知県までの飛行機や宿泊の手配などを行い、大忙しでしたが、かけがえのない経験。個人的にも女子シングルスでベスト8の結果を出し「やり切った！」という思いです。

**柴山** 僕も部活が思い出深いな。小中学校で野球をして、高校は別の競技、やっぱり野球が好きで大学は準硬式野球部に。例年一回戦敗退だったチームが、コロナが明ける頃に「絶対優勝しよう」とモチベーションが高まり、体作りから本気で取り組みました。結果、オールデンタルで悲願の優勝。特に、一点負けていた最終回、自分が打ったヒットをきっかけに逆転サヨナラ勝ちした準決勝は一生忘れないと思う。

**和田** 総合大学だから大学祭も規模が大きくて、盛り上がるよね。僕が所属するサークルは代々、ソーセージ屋台を出店。店づくりにも凝って名店になりきり、朝から晩まで売り込みをするのは楽しかったよ。翌日はみんな声がガラガラだった！

**鶴田** あ、私そのソーセージ屋さん見かけた。目立ってた！ 留学生が多いのも特徴かな。日本語をまったく話さない留学生や研究者もいて、英語でコミュニケーションを取るから勉強になるね。

**柴山** 食堂で留学生とのランチ会が開かれることもあるし、日本人学生と留学生が共同生活する寮「ユニバーシティ・ハウス」もあって、身近に国際交流がある印象。大学の制度を使って短期留学する人も多いです。

### 緑豊かでほどよく都会 おいしいものもあり！

**鶴田** 仙台は、ほどよく都会で暮らしやすい。大きなショッピングモールやアウトレットモールもあって、ショッピングが楽しいです。

**和田** 緑と調和したまちづくりがいい。定禅寺通のケヤキ並木は市街地なのに四季を感じられるし、冬には「光のページェント」というイルミネーションイベントがあっ

て散歩も楽しいです。勉強で疲れたときは、ジョギングで気分転換。広瀬川とか西公園とその周辺とか、街なかにはいいコースがあるんだよね。

**柴山** 地元は栃木で“海なし県”だから、仙台に来て海鮮のおいしさに感動！ しかもリーズナブルでうれしい。東京ならあり得ない価格で、すごくおいしい料理が食べられます。ラーメン店が多いのも気に入っていて、僕は油そばやまぜそばが好き。

**和田** ラーメン店、豊富だよな。深夜まで営業している店もあって、帰りについ寄っちゃうな。

### ひとりでも多くの口を健康に 経験と学びを社会に役立てたい

**柴山** 将来は歯科医師として、確たる根拠に基づいた診療をしたい。最終的には開業を目指していますが、それまでにさまざまなタイプの歯科医院で臨床経験を積み、豊富な治療法を吸収したいと考えています。

**和田** いつか実家の歯科医院を継ぐと思います。そのときには、大学で培った知見と人脈を生かして「田舎の小さな歯科医院から社会を変える」という野望がある。むし歯になる前に予防し、誰もむし歯に苦しまず、歯医者が歯を削らなくていい社会はみんながハッピー。その実現のためには、医療制度や社会の仕組みに働きかける必要もあると思う。頑張ります。

**鶴田** 小児歯科専門医の資格を取得して小児歯科のスペシャリストとなり、研究成果もあげたい。幼少期に歯の健康の意識をもってもらうことで、大人になったときにむし歯がなく、口の中にストレスのない人を増やしたいです。

### 決めた道が「正解」だ！ 自分を信じて学び続けよう

**鶴田** 「置かれた場所で咲きなさい」という言葉が好き。私は進路に迷って最終的に歯学部を決めたものの、悩む時期もありました。でも今は本当に東北大歯学部を選んで良かったと思う。高校生の皆さんも、悩んだり迷ったりしたとしても自分が決めた道が正解。そこで努力することで、きっと目標や楽しみが見つかるよ。

**柴山** 本学部はとても恵まれた環境だから何の心配もいりません。一本一本の歯は小さいけど、学ぶことは膨大。どれだけ掘り下げてもさらに新たな発見がある、勉強しがいのある分野です。

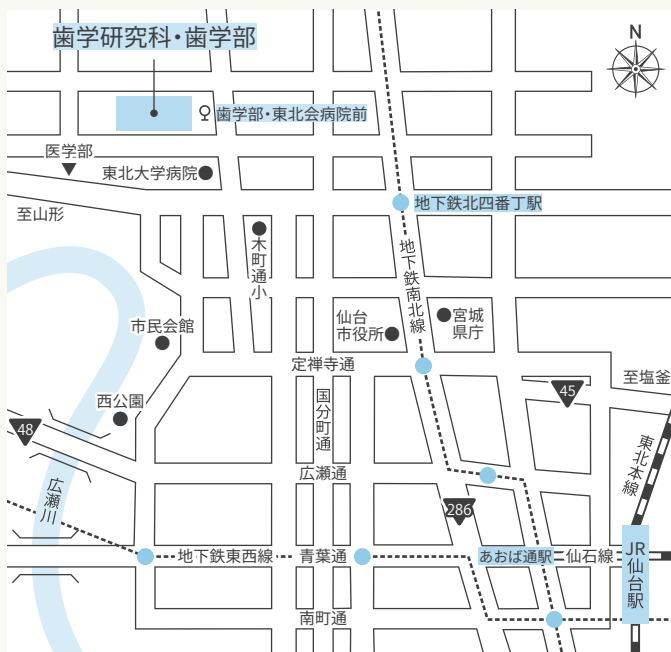
**和田** 大学はあくまで通過点。僕は今、入学前に想像もしなかった研究をしているし、人生は自分次第でいくらでも変えられる。東北大は多様性に富み、誰もが個性を発揮できる場所だと思います。それから、子どもの頃に歯医者が嫌いだった人こそ歯科医に向いているかも。「歯科の常識を変えてやる」という気概で挑んでほしいです。



**柴山大輝** さん  
顎口腔矯正学  
矯正歯科医員  
栃木県出身

**鶴田侑万** さん  
小児発達歯科学  
小児歯科医員  
長野県出身

**和田健太郎** さん  
国際歯科保健学  
歯内療法科医員  
茨城県出身



## ● ACCESS / 仙台駅からの交通手段

### 仙台市営バスご利用の場合

仙台駅西口バスターミナル

#### ⑨番乗り場から

「東北大学病院経由 子平町 → 北山循環」乗車、  
「歯学部・東北会病院前」下車(約20分)、徒歩1分

#### ⑰番乗り場から

「山手町経由 桜ヶ丘七丁目」乗車、  
「歯学部・東北会病院前」下車(約20分)、徒歩1分

#### ⑱番乗り場から

「北山トンネル・中山経由 北中山・西中山」乗車、  
「歯学部・東北会病院前」下車(約20分)、徒歩1分

#### ⑬、⑭、⑮番乗り場から

「大学病院経由」乗車、  
「大学病院前」下車(約15分)、徒歩5分

### 地下鉄ご利用の場合

地下鉄南北線「泉中央行き」に乗車、「北四番丁駅」で下車、  
北口2番出口より八幡町方面へ徒歩約15分

## ● 東北大学大学院歯学研究科・歯学部

〒980-8575 仙台市青葉区星陵町4番1号  
TEL:022-717-8248 FAX:022-717-8279  
H P: <https://www.dent.tohoku.ac.jp/>  
E-mail: [den-kyom@grp.tohoku.ac.jp](mailto:den-kyom@grp.tohoku.ac.jp)

